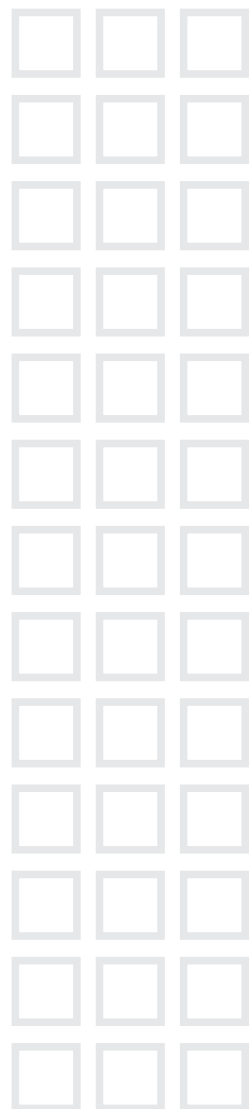


## 第 7 章

# 新「一宮市」誕生





## 1 閉市町式典及び閉庁式

### (1) 尾西市閉市式典

平成17年3月20日、「尾西市思い出記念イベント」と称し、尾西市民会館において閉市式典が開催され、その後各地域で記念植樹が行われた。

#### 次 第

- 開式
- 国歌斉唱
- 市民憲章唱和
- 市長式辞
- 市議会議長あいさつ
- 来賓あいさつ
- 「尾西市50年の歩み」ビデオ上映
- 大徳小学校児童による市制定歌合唱(とよはたぐもの歌)
- 市旗降納
- 閉式



記念植樹 尾西公園等都市公園及び児童遊園等で地域から希望のある公園等

- ・ 庁舎南駐車場南花壇はじめ全会場にて記念植樹
- ・ ソメイヨシノの苗木を公園等に植樹
- ・ 各会場でセレモニー
- ・ 地域の代表による記念植樹及び標柱設置

来賓・招待者：国会議員、県議員、国・県関係機関、近隣市町長、  
市議会議員、区長、総代、行政委員会委員、各種団体の役員等

#### 【尾西市長式辞】

本日ここに、尾西市閉市式典を挙げていただきましたところ、御登壇いただきました皆様はじめ会場の皆様方におかれましては、公私何かと御多用のところを多数御臨席賜り厚く御礼申し上げますとともに、市制施行以来、閉市を迎えた今日まで、半世紀の永きにわたり、尾西市にいただいてまいりました、民生、教育をはじめとする市政のあらゆる分野にわたる、各々のお立場からの深い御理解と温かい御協力、そして、力強い御支援に、まずもって、心からなる感謝を申し上げます。

さて、閉市を迎え、わがまち尾西市50年余の歴史を、今、振り返りますと、それは、「激動の昭和」から「変革の平成」へと大きく変貌する社会の中で、決して穏やかなものではありませんでした。

本市の誕生は、昭和30年1月1日、県下20番目の市でありました。後世「昭和の大合併」と言われた時代のことであります。

この市制施行当時は、本市の今も変わらぬ基幹産業である繊維産業が隆盛期にあり、他市に類を見ない豊かな財政力を背景に、現在の市役所本庁舎をはじめ各地区の保育園、後年「児童館活動は尾西に学べ」とさえ言わしめた、県内初の公立児童館などが続々と建設され、市勢伸展の著しいことを広く内外に示したのであります。

また、昭和37年には、わが国初の労務管理モデル都市宣言を行い、施設・設備面のみならずソフト面からも市民生活の向上に取り組み、他自治体に勝る大きな成果を挙げてまいりました。

このような先人の市民生活向上への弛みない努力は、その後の、日本の高度経済成長と相反するがごとくの基幹産業である繊維産業の、今なお続く永い苦闘の時代にも創意工夫をもって不断に続けられ、社会教育・余暇活動施設ひとつを例に取り上げても、図書館、市民スポーツセンター、歴史民俗資料館、公民館、美術館と他市に誇るべき、ハード・ソフト両面を兼ね備えた施設が次々と誕生したのであります。

また、市民生活の豊かさを構成する根源のひとつである産業の振興を目指し、工業専用地域を設け、複合産業都市を標榜し、新たな企業の誘致に力を注ぎ、今日一定の成果を見ているのは、御承知のとおりであります。

そして、近年は、この先人の残された福祉、教育をはじめとする、多方面にわたるかけがえのない財産と、身近に今なお多くの自然を残しながらも、200万都市名古屋へ至便の地であることを生かした「心ふれあう緑豊かな住宅産業都市」への未来も見出されてきたのであります。

この未来への展望が開かれた今このとき、地方分権の有り様、三位一体改革の行方などをはじめとする地方自治体を取り巻く状況と本市のみならず、広くこの地域のより一層の発展を念頭に、市議会をはじめ市民の皆様とともに、考え、悩み、論議し、そして、選んだ道が今日のこの合併であります。

尾西に生まれ、育ち、また、尾西を愛し、育んでいただいた方々には、感慨もひとしおのことと存じます。しかし、この選択は、将来においてなお、すべてのここに暮らす人々が、安全、安心に日々の暮らしを営んでいただくためには、唯一無二のものであったと、この後必ずや評価していただけるものと確信いたしております。

そして、また、そのために今後最大限の努力が払われるものと信じて疑いません。

平成17年3月31日、わが尾西市は、その50年の歴史に幕を下ろします。

しかし、幕を下ろすとき、それは、終わりのときではなく、始まりのときです。

尾西市半世紀の歴史によって培われた文化と伝統は、新生「一宮市」に受け継がれ、尾西というまちが確かにあったという証を残し、新市の新たな歴史が始まるのです。

そして、そこに、市民の皆様が、すばらしい歴史の一ページを刻んでいただくことを切に望んでやみません。

終わりに臨み、本日御臨席いただきました皆様方の御健勝と御繁栄を衷心からお祈りいたしますとともに、永きにわたり尾西市にいただいてまいりました、市政各般への深い御理解と温かい御協力、そして、力強い御支援を変わることなく、新市へ賜りますことを心からお願いいたしまして、式辞といたします。

平成17年3月20日

尾西市長 丹羽厚詞

## (2) 木曾川町閉町式典

平成17年3月27日、木曾川町総合福祉体育館において、閉町式典が開催された。

### 次 第

- 開式
- 町民憲章朗読
- 黙祷
- 町長式辞
- 議長あいさつ
- 永年奉職者等へ表彰状・感謝状贈呈
- 木曾川西小学校児童による合唱  
(また あう日まで さようなら 歌え あしたに向かって)
- 町旗降納
- 閉式



### 公 演

- ・ 木曾川文化会館住民ワークショップによる一豊うたものがたり

来賓・招待者：町議会議員、区長、町内会長、行政委員会委員、  
各種団体の役員等

### 【木曾川町長式辞】

閉町式にあたり、最後の木曾川町長として一言ご挨拶申し上げます。本日は、この町が今の形になってから100年目を迎える年であることを祝い、町政の発展に尽くされた皆様に感謝を申し上げる、記念すべき日でもあります。そのことを喜びながら一方で100年の歴史に幕を閉じようとする・・・大変な日がとうとうやってきてしまったなあという気持ちが、今私の胸を駆け抜けていきます。

木曾川町という名前を頭に浮かべてみて下さい。美しい名前です。木曾川橋から下流を眺めると、木曾川がそのまま海へと広がっていくような、まさに大河の様相を呈していることに驚かされます。振り返って上流を見れば、流れの源御嶽山の雄姿を望むことができます。こんな感動的な木曾川の姿をそっくり町名に取り込んでしまったただ一つの町、木曾川町。しかしわれわれはその名を正當に評価し、慈しんできたのでしょうか。高度経済成長が始まり、都市化が正義とされ、「大きいことはいいことだ」が合い言葉になるにつれ、「木曾川町」と信州かといわれる」「田舎やでいかんわ」「小さいでいかんわ」と、自分の町をさげすむような声がよく聞かれるようになりました。よその土地の大学から帰った私には、そんな声が余計耳につき、とても残念に思ったものです。そこで私は、ミニコミ紙を発行して「自分の町を見直そう」と呼び

掛けたりしてきましたが、縁あって町長に就任したとき、ごく自然に「自信と誇りの持てる町づくり」をスローガンに掲げました。

手法は二つ、自分の町の特長を発見しそれを生かした町づくりをしていくことと、特長を自分たちの手で作っていくことです。幹線道路、鉄道など交通の利便性を生かした経済の活性化、一豊・玉堂など歴史文化の発掘・顕彰によって町づくりの意識と意欲を高めることなどは前者、保健福祉の町づくり、教育文化の町づくりなどは後者です。大勢の皆さんが呼応して下さり、10年間汗を流し続けて下さいました。その成果は果たして現れるのか、皆さんの努力は報いられるのか・・・リーダーがリーダーですのでまことに心許ないところがありましたが、思わぬところでその結果が評価され始めました。合併です。

合併の協議が進むにつれ「木曾川町の良いところ、先進的なところ」が浮き彫りにされるようになりました。そしてそれが合併によってなくなってしまうのではないかと心配されるようになりました。同時に合併を仕掛けた私への批判が日に日に厳しくなりました。これはまさに「自信と誇り」の裏返しと言えるのではないのでしょうか。私は皆さんの10年間の汗がやはり間違いなくキラリと光る結晶になっていたことを喜ぶとともに、勝手ながらそれがわかったことが合併の大きな成果の一つだと、考えるようになりました。

よく考えてみて下さい。ここまで育ってもう皆さんの財産になっている木曾川のいいところは、一時の無理解や財政的な都合で削られたとしても、消えてなくなるわけがありません。皆さんが黙ってしまったり忘れてしまったりしない限り、必ずまたむくむくと頭をもたげ、逆に新市全体に根を張っていくはずです。それをまた押さえようとするほど行政が横暴ならば、皆さんがそれを許さなければいいのです。自信と誇りは地域のパワーになります。そのパワーが新しい市を動かしていくものだと私は確信しています。地方の時代の主役は行政ではなく住民であると、私が言い続けてきたことを思い出して下さい。

少し開き直ったような言い方になりましたが、私はこの木曾川町を愛する気持ちでは誰にも負けないという自負をもって町政を運営してきました。その私が、10年間町長として学んだことをもとに時代の流れと地域特性を読み、自分の立場を賭けて踏み切った合併であります。その判断にかかる責任はまことに大きく重く、住民投票の結果に押しつぶされそうになったこともありました。しかし今、良いところがいっぱいあると云ってくださる皆さんの言葉をバネに、新しい市民としての合併後の展望を開きつつあるところです。

町旗に堂々と描かれた町章をご覧ください。昭和35年に制定されたこの町章は、木曾川の木を字を図案化したもので、3本の棒がしっかりと組み合わされて「団結」、全ての方向に同じ長さで「平等」、外に向かって矢印が勢いよくのびて「発展」を表しています。今の私は、この町章を木曾川のパワーが新しい市全体に力強く広がっていく

姿を表すシンボルとして、背中に背負っていきたい気持ちです。

皆さんもどうか、町章が示すような方向で、新しい市の市民として展望を広げていって下さい。

町章はこれでお別れですが、「木曽川」の地名は残ります。それどころか新しい市は総延長18kmにわたって木曽川に抱かれる、まさに「木曽川のまち」として産声を上げることになります。木曽川町はその延長のど真ん中。また地名のシンボルの一つ「JR木曽川駅」のリニューアル・プランにすでに着手していることも大きなポイントです。「信州ではなく、ここが木曽川」と言いきれぬ地域づくりにねばり強く取り組んでいけば、今のところ大言壮語と見られている私の「木曽川副都心構想」は必ず実現すると信じています。

町の最後に臨んでなお強気にラッパを吹いていますが、4月1日からは一市民として、愛する郷土木曽川町のために何かの役に立っていきたくと思っていますので、どうか皆さんの仲間に入れてやって下さい。そしてともに前向きでがんばりましょう。

さていよいよ歴史的な時が近づきました。すべての木曽川町民がそれぞれの熱い思いを胸に、木曽川の悠久の流れに未来を託し、今木曽川町100年の歴史に幕を下ろします。歴史を積み上げてこられた先人諸氏、どうか町の将来に免じて、お許し下さい。町旗の前に頭を垂れ、閉町のご挨拶を終わります。

ありがとうございました。

平成17年3月27日

木曽川町長 山口 昭雄

### (3) 閉庁式

平成17年3月31日、尾西市役所、木曽川町役場において、それぞれ閉庁式が開催された。尾西市は市制50年に、木曽川町は町制100年に幕を閉じた。



## 2 一宮市役所尾西庁舎、木曽川庁舎開庁式及び合併記念式典

## (1) 一宮市役所尾西庁舎、木曽川庁舎開庁式

平成17年4月1日、午前9時より尾西庁舎で、午前11時より木曽川庁舎において開庁式を開催した。

## ◆ 尾西庁舎開庁式

## 次 第

- 開式
- 市長あいさつ
- 来賓祝辞
  - 一宮市議会議長 小澤 達弥
  - 前尾西市長 丹羽 厚詞
  - 前尾西市議会議長 浅野 長祥
- テープカット
- 尾西庁舎表示板除幕式
- 閉式



## ◆ 木曽川庁舎開庁式

## 次 第

- 開式
- 市長あいさつ
- 来賓祝辞
  - 一宮市議会議長 小澤 達弥
  - 前木曽川町長 山口 昭雄
  - 前木曽川町議会議長 川井 勇
- テープカット
- 木曽川庁舎表示板除幕式
- 閉式



## (2) 合併記念式典

平成17年4月1日、一宮市民会館において合併を祝う記念式を開催した。

当日は、関係国会議員、総務省関係、国関係各機関、愛知県知事、県議会議員、地元県議会議員、愛知県関係各機関、近隣市町長、一宮市議会議員、合併協議会委員、行政委員会委員、市関係各機関、町会長、区長、町内会長等およそ1,100人が一堂に会し、新「一宮市」の誕生を祝った。

### 次 第

- 開式の辞
- 市長式辞
- あいさつ
- 来賓祝辞
- 来賓紹介
- 総務大臣表彰
- 合併記念「未来の一宮市」作文  
表彰式、特選作品発表
- 万歳三唱



### 【市長式辞】

本日、ここに一宮市・尾西市・木曾川町の合併による新生「一宮市」の誕生を記念し、「一宮市・尾西市・木曾川町合併記念式典」を開催しましたところ、公私ともに何かとお忙しい中にもかかわらず、総務大臣麻生太郎様、愛知県知事神田真秋様、地元国会議員を始めとする多くのご来賓の皆様並びに多くの市民の皆様にご臨席を賜りましたことに、厚く御礼申し上げます。

また、今回の合併の実現に向けてご尽力されました、関係市町の長、関係市町の議会議員、合併協議会委員及び関係各方面でお世話になりました多くの皆様方に対しまして、深く感謝を申し上げます。

一宮市・尾西市・木曾川町の2市1町は愛知県の西北部に位置し、気候・風土はもとより古くから歴史・文化・経済を共有し、日常のくらしのさまざまな面においても深いつながりをもち、お互いに助け合いながら共に発展してまいりました。

一宮市・尾西市におきましては昭和30年のいわゆる昭和の大合併から50年、木曾川町におきましては町制施行から100年と、2市1町の区域が決まってから多くの歳月が経過しました。近年、この地域をとりまく社会経済状況は大きく変わり、行政におきましても厳しい財政状況の中、少子高齢化の進展、生活圏の広域化、地方分権の推進等の多くの課題に直面しております。

このような中、平成15年1月14日に任意の協議会である一宮市・尾西市・木曾

川町合併検討協議会が立ち上げられ合併協議を開始いたしました。この任意協議会において大変重要な事項が決定されました。すなわち「2市1町が対等の精神で合併協議を進める」ということでもあります。協議の過程で厳しい局面もありましたが、この精神は合併協議の最後まで尊重されました。その後、平成15年7月2日に法定の一宮市・尾西市・木曾川町合併協議会を設置し、新しいまちづくりと行政改革の手立てとして協議を始めました。この協議会において、委員の皆様には精力的にご協議いただき、昨年8月9日に合併調印式を執り行うに至りました。その後、各市町の議会での議決、愛知県議会の議決、愛知県知事の決定、そして本年1月20日には総務大臣告示が行われ、本日、人口37万人、面積114km<sup>2</sup>の新生「一宮市」が誕生いたしました。

今回の合併にあたり、合併後のまちづくりの方向性を定めるとともに、2市1町の速やかな一体性の確立及び地域の個性を生かした均衡ある発展と住民福祉の向上を図るため、新市建設計画を策定いたしました。基本理念として、「安心」「元気」「協働」の3つを掲げ、暮らし、産業など幅広い分野にわたり、安心して諸活動が展開できる地域づくり、市民、企業などこの地域に関わりを持つ全ての主体が元気に活動できるまちづくり、市民と行政の協働によるまちづくりを進めてまいり所存です。

また、新生「一宮市」の将来像を「木曾の清流に映え、心ふれあう躍動都市 一宮」と決めました。2市1町の合併により木曾川に面する距離が18km余となり、新生「一宮市」は文字通り「母なる木曾川」とともに歩み、その恩恵を受ける地域となります。この木曾川が育んできた豊かな自然や、これまで蓄積された歴史・文化を礎に、基本理念のもと、次世代を担う人材づくりとしての教育の充実や、地域発展のための産業振興など、心がふれあい、そして躍動感あふれるまちづくりを目指していくことを誓うものであります。

いうまでもなく、合併は目的ではありません。新たに定めた新市の将来像を実現するための手段であります。今日を出発点として、ここにお集まりの皆様、そしてすべての市民と行政が力を結集して、夢と誇りの持てる「躍動都市 一宮」建設のためにがんばっていきましょう。

本日ご臨席の皆様におかれましては、新生「一宮市」の発展のため、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

平成17年4月1日

一宮市長 谷 一 夫

### 3 新市の組織・機構

新市の組織・機構は「新市における事務組織・機構の整備方針」に基づき、一宮市の組織を基本に統合し、一宮市にない組織は所管の部に帰属させた。

#### 【新市における事務組織・機構の整備方針】

- ①市民に分かりやすく、住民サービスの向上を図ることができる組織・機構
- ②市民の声を適正にかつ迅速に反映することができる組織・機構
- ③新たな行政課題や様々な行政需要に弾力的で柔軟に対応できる組織・機構
- ④簡素で効率的な組織・機構
- ⑤新市の建設計画を円滑に遂行できる組織・機構
- ⑥指揮命令系統が明確な組織・機構
- ⑦職員の能力を十分に活用できる組織・機構
- ⑧緊急時に即応できる組織・機構

また、部署の配置は、一宮庁舎・尾西庁舎・木曾川庁舎に機能を分散させる分庁方式を採用し、原則、部局単位の配置とした。なお、尾西庁舎・木曾川庁舎には窓口課を設け、これまで出張所が行っていた業務に加え、福祉関係事務など住民生活に関わりの深い事務について、これまでとほとんど変わりなく利用できる体制とした。

#### ○各庁舎の配置

##### 【一宮庁舎】

企画部	秘書広報課・企画政策課・人事課・地域ふれあい課
総務部	行政課・財政課・管財課・市民税課・資産税課・納税課
市民福祉部	市民課・保険年金課・福祉課・高年福祉課・子育て支援課 保育課
経済部	経済振興課・農業振興課
会計課・議会事務局・監査事務局	

## 【尾西庁舎】

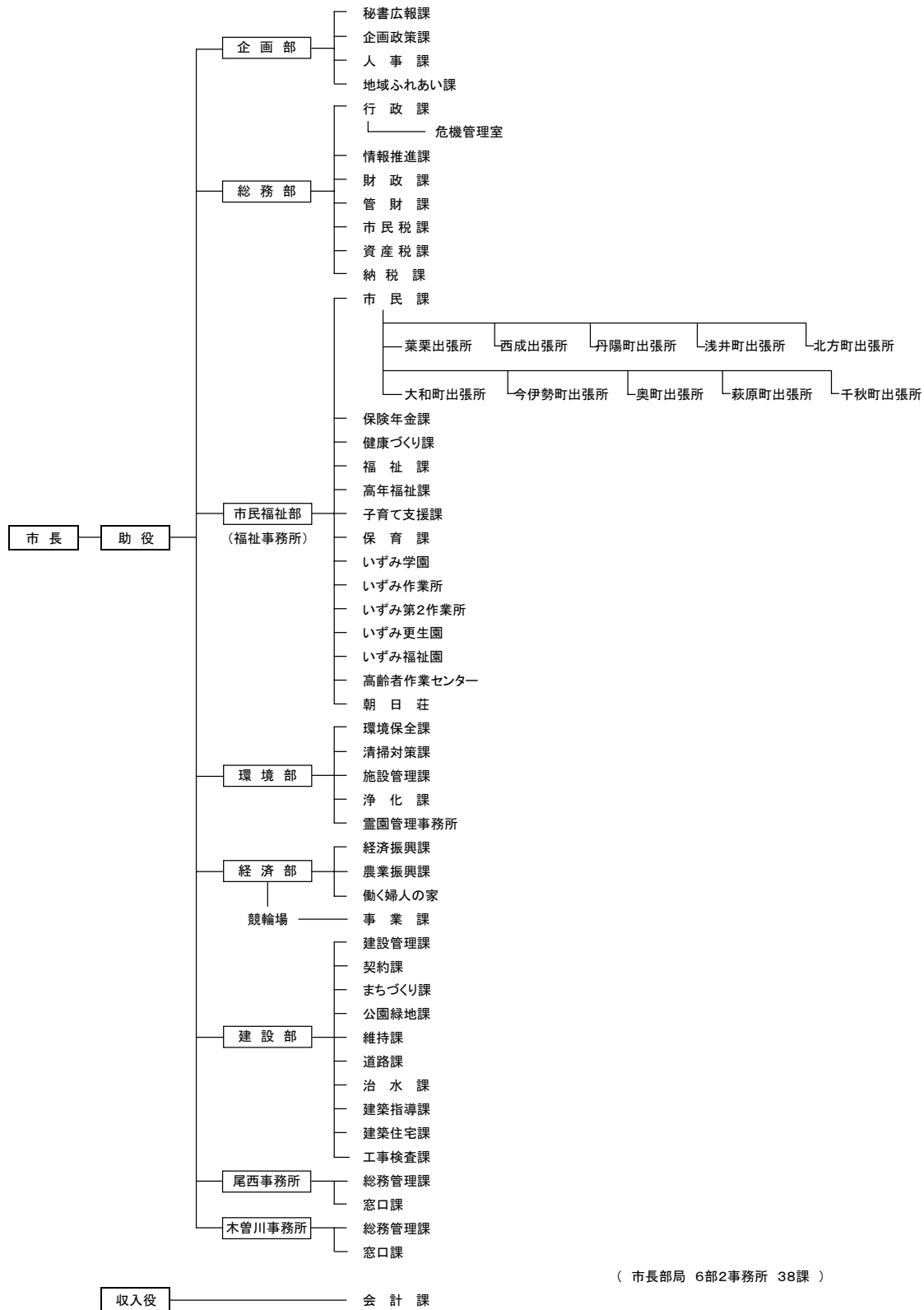
尾西事務所	総務管理課・窓口課
建設部	建設管理課・契約課・まちづくり課・公園緑地課・維持課 道路課・治水課・建築指導課・建築住宅課・工事検査課
上下水道部	経営総務課・営業課・計画調整課・上水道整備課

## 【木曽川庁舎】

総務部	情報推進課
木曽川事務所	総務管理課・窓口課
教育文化部	総務課・学校教育課・生涯学習課・スポーツ課

# 一宮市行政機構図

(平成17年4月1日現在)



(市長部局 6部2事務所 38課)

